



叩き石（道具製作具）

笹山原 16

4 a b 層



叩き石

石器分布の検討結果

- 焚火周辺には石斧、砥石、搔器・鋸齒縁石器・ノッチ、叩き石が分布する傾向にある
- 基部整形石器・ペン先形ナイフ、台形石器・台形様石器は焚火から離れた場所に分布する傾向が認められる
- ↓
- 石器の型式ごとの分布では人間の行動内容まで踏み込めない

石斧と砥石を使った行動の仮説（類推仮説）

- 旧石器時代の石斧の機能：樹木伐採具 V S 動物解体具（学史）
- 砥石：置き砥石と手持ち砥石（学史）
- 笹山原遺跡から出土した砥石はすべて手持ち砥石＝携帯品（類推）
- 笹山原遺跡では砥石は局部磨製石斧の最終加工工具ではなく、刃部再生工具（類推）
- 石斧を使いながら刃部再生が必要な作業とは何か？

樹木を伐採する場合、一般に砥石で刃部再生は行わない。木製品の細工は別であろうが・・・

砥石による刃部再生とは刃部研ぎ出しではなく付着物の除去ではないか（仮説）⇒具体的には動物性脂肪などのまとわりつく物質の除去（類推）

C f：縄文時代の石匙は剥離により刃部再生を行う（学史）

類例：搔器、鋸齒縁石器、ノッチも剥離により刃部再生を行う（⇒刃部再生剥離には小型石ハンマーが有効）（学史）

類推仮説：笹山原遺跡では石斧を使った獣皮加工作業が行われていたのではないか。それには搔器・鋸齒縁石器・ノッチなども使われ、刃部再生が行われていたのではなかろうか？

遺跡空間内狩猟民の行動の検討

- 焚火周辺で人間はどのような位置にあるか、現場で検討
- 狩猟民・トナカイ遊牧民のキャンプ地の姿（静止画像・動画から想定する先史人の生活）







エヴェンク族のキャンプ



エヴェンク族の皮鞣し風景



チュクチのトナカイ毛皮加工（斎藤1998）

- 1：皮剥ぎ 女性用ナイフ
- 2：肉脂肪の除去
- 3：乾燥・伸展 押さえにペグ、石
- 4：保存 畳んで
- 5：肉側を内にして畳み一晩おく 乾いてしまったら水に浸す
- 6：掻き取り スクレイパー、
- 7：すりこみ 足で踏みつける
- 8：一晩放置 トナカイの糞・人尿・肉汁
- 9：（室内） スクレイパー、足で踏みつける
- 10：掻き取り スクレイパー
- 11：染色 人尿+ハンノキ樹皮屑
- 12：掻き取り スクレイパー
- 13：終了

Hide tanning the woods cry way カナダ原住民の皮鞣し法 13段階の皮鞣し工程

- 1:skinning hide (皮剥ぎ)
- 2:soaking (漬け込み)
- 3:stretching (広げて棒に括り付けて引き伸ばし)
- 4:fleshing (工具を用いた脂肪の除去)
- 5:scraping & thinning (毛の剥ぎ取り)
- 6:braning (バターを入れた液体を揉み込む)
- 7:first smoking (焚火による毛皮の燻し)
- 8:secand soaking (2回目の漬け込み)
- 9:softening on ring (金輪を使って皮を滑らかにする)
- 10:wringing out (しぼり) 赤：道具の利用、黄色：火の使用
- 11:drying the hide (毛皮乾燥)
- 12:softing & fluffing (毛皮のなめし、実用化)
- 13:final smoking (最終燻製)

石器にまつわるエピソード (鋸歯縁石器・ノッチ・剥片編)

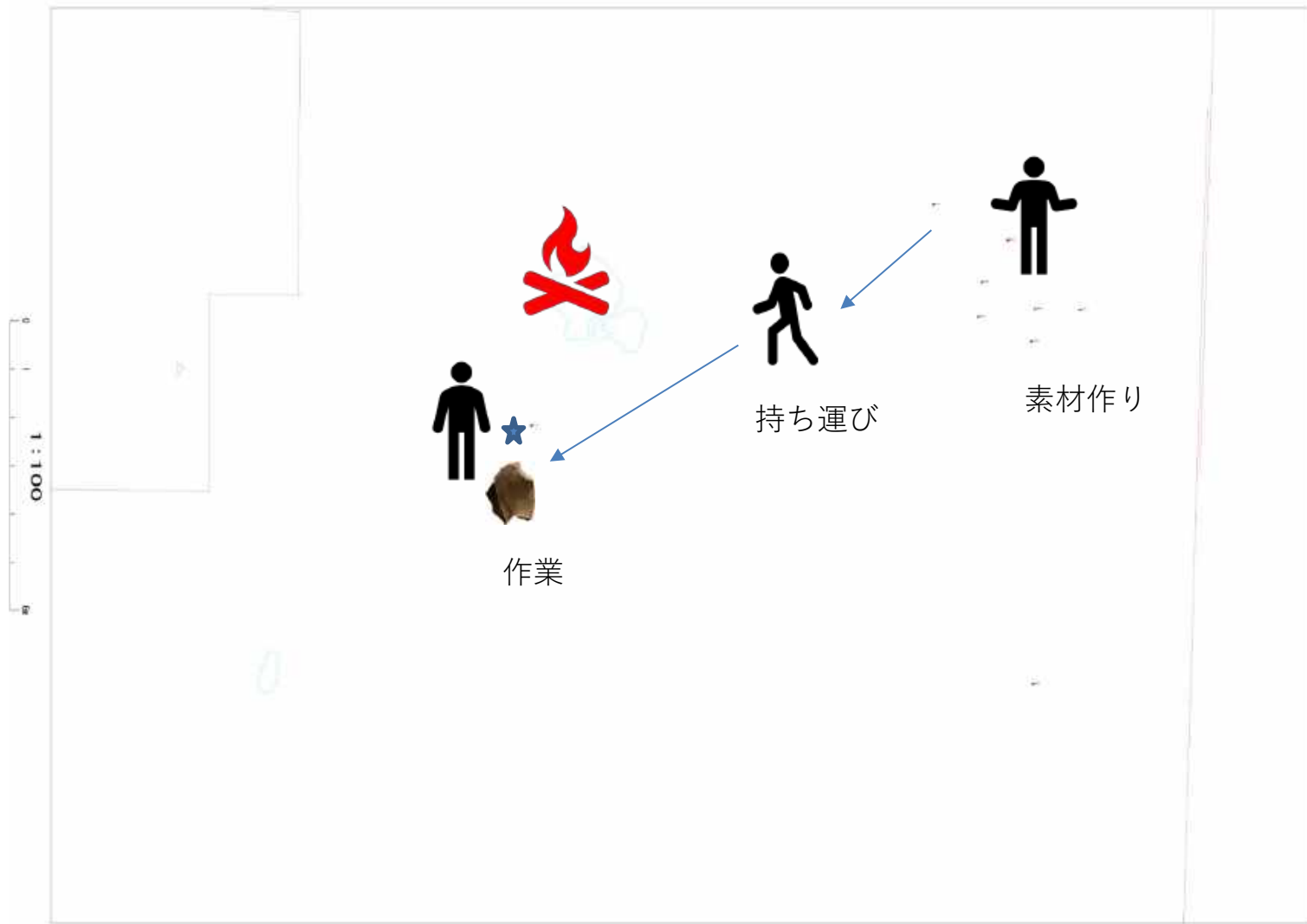


同一母岩（硬質頁岩）の石器











エピソード（鋸齒縁石器）

- 運んできた硬質頁岩を割った。
- 本当の目的は不明？
- 厚手の剥片を持って（あるいはこの場所で刃部を作って）、焚火のそばに行った。
- 角・骨を加工して捨てた。

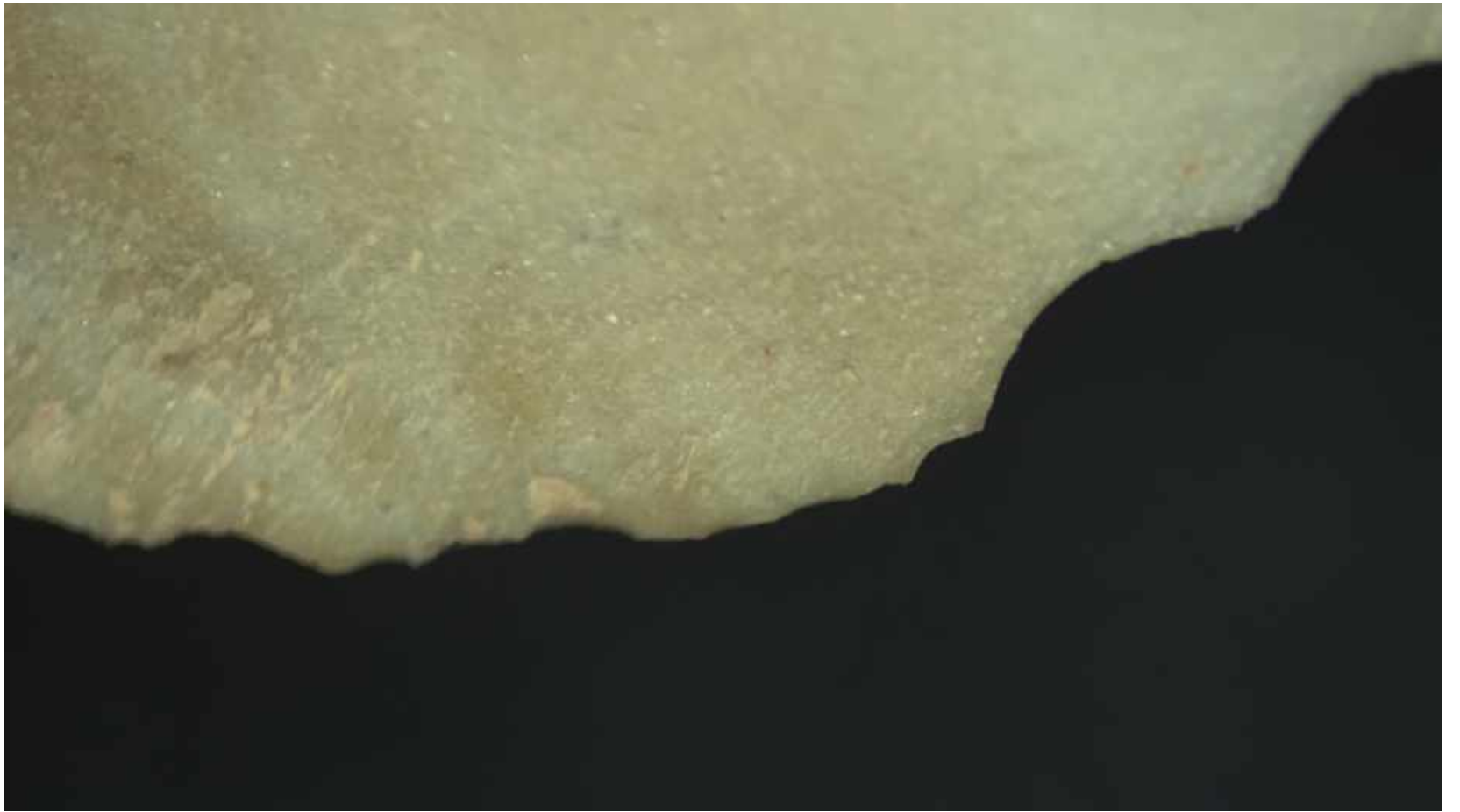


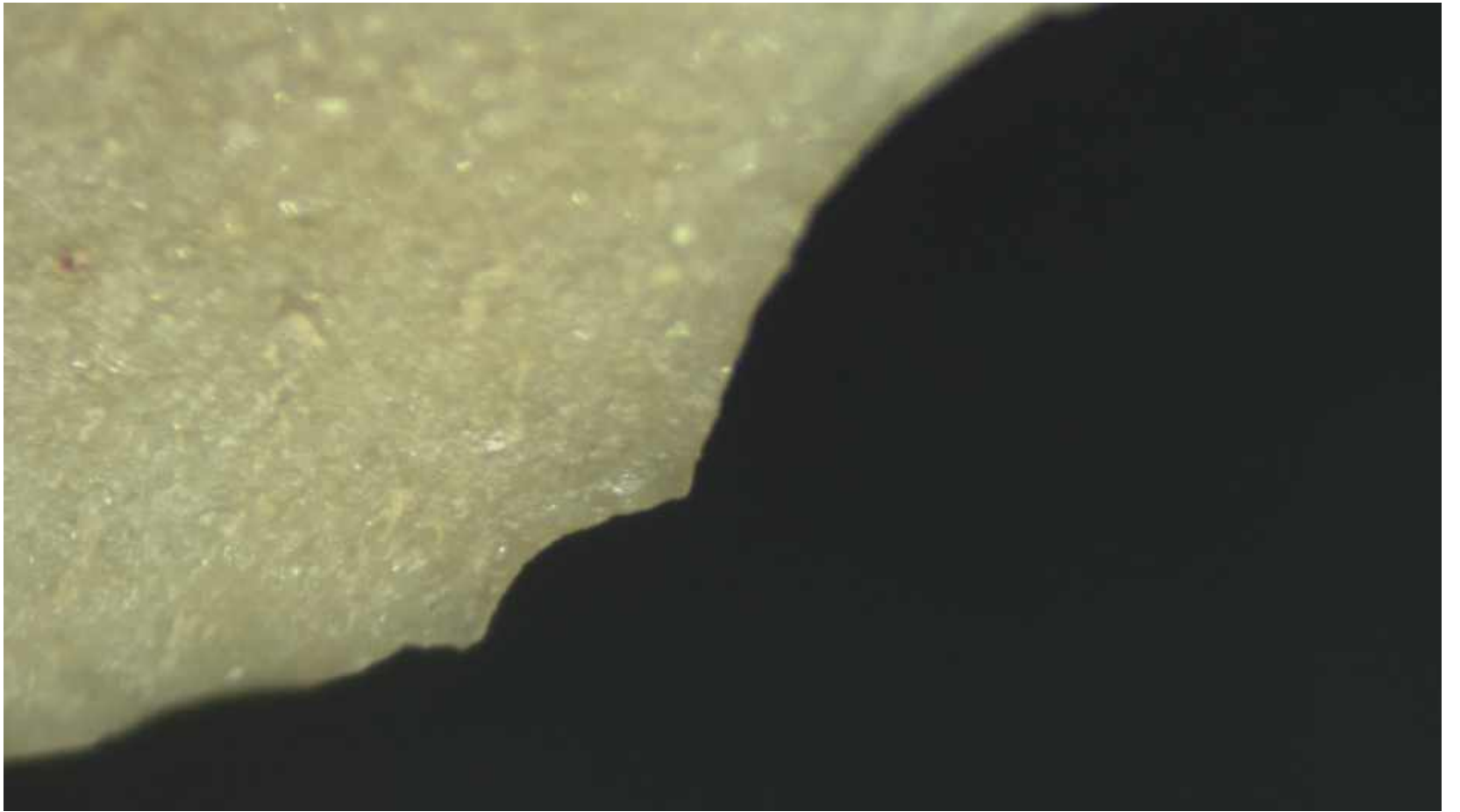
同一母岩















エピソード（薄い剥片）

- 拾ってきた転石を運び込み、アトリエで節理面がある頁岩を剥離した。
- 薄い刃部の剥片を焚火の西側に持って行き、肉などの軟らかいものを切った。



表

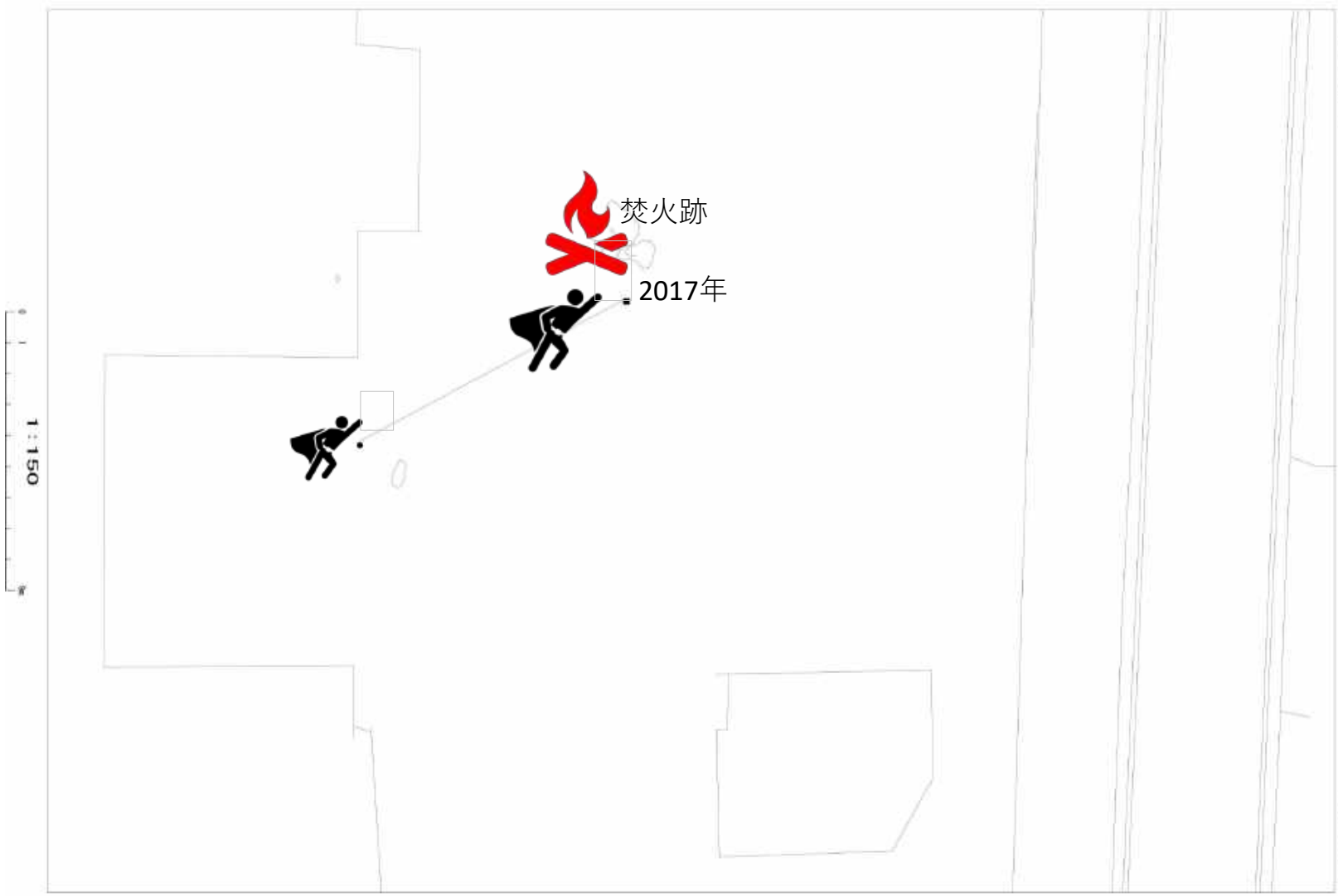
裏











エピソード（削器）

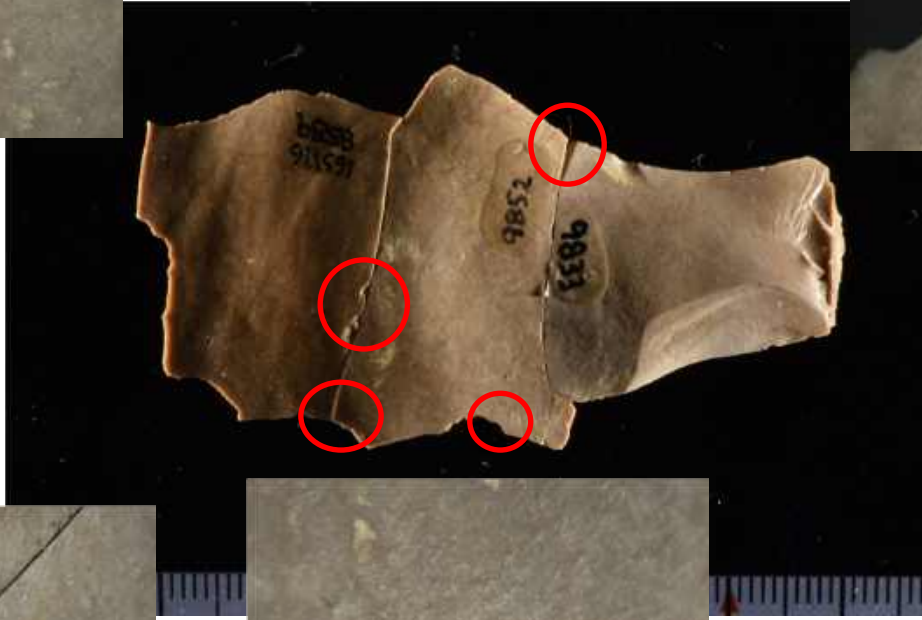
- 大きめの厚手剥片素材の石器を持ち込み（多分ここに来る前から使いこんでいた）、焚火のまわりでその石器を使っていたところ、節理面で割れてしまった。
- 割れた一方を折り取り、持って行き、肉・皮などの軟らかいものを切った。
- （別の仮説）
- 大きめの剥片を使っていたら節理面から割れてしまった。焚火のそばにひとつを置き、もうひとつを持って行き、？を切った。





小さいハンマー
(笹山原遺跡より出土したモノ)













エピソード（鋸齒縁石器）

- 持ち込んだ石器を使い、焚火の外周で、鹿角・骨を削っていた。石器が壊れたが、割れた縁辺も使い続けた。壊れた石器は作業の場所に捨ててきた。
- 作業中に刃部再生をしたかもしれない。近くには刃部作出（再生）用ハンマーストーンがあったが、この石器との関係を示す直接的証拠はない。

ふたつの焚火の比較

- **07**焚火は居住域（テント状施設）の内部の焚火跡
- **16**焚火は屋外の焚火跡
- **16**焚火は掘り込み炉で埋め戻している。**16**焚火（**SX02**）で火を焚き、**16**焚火（**SX01**）に熾火（おきび）を保存していた可能性がある。

- **07**焚火の居住域（テント状施設：半径 3 m の円形）内部にはほとんど、遺物がない。焚火の中から微細石器が確認されており、入り口部近くに微細石器の廃棄が認められる。住居域には敷革などの施設があった可能性がある。

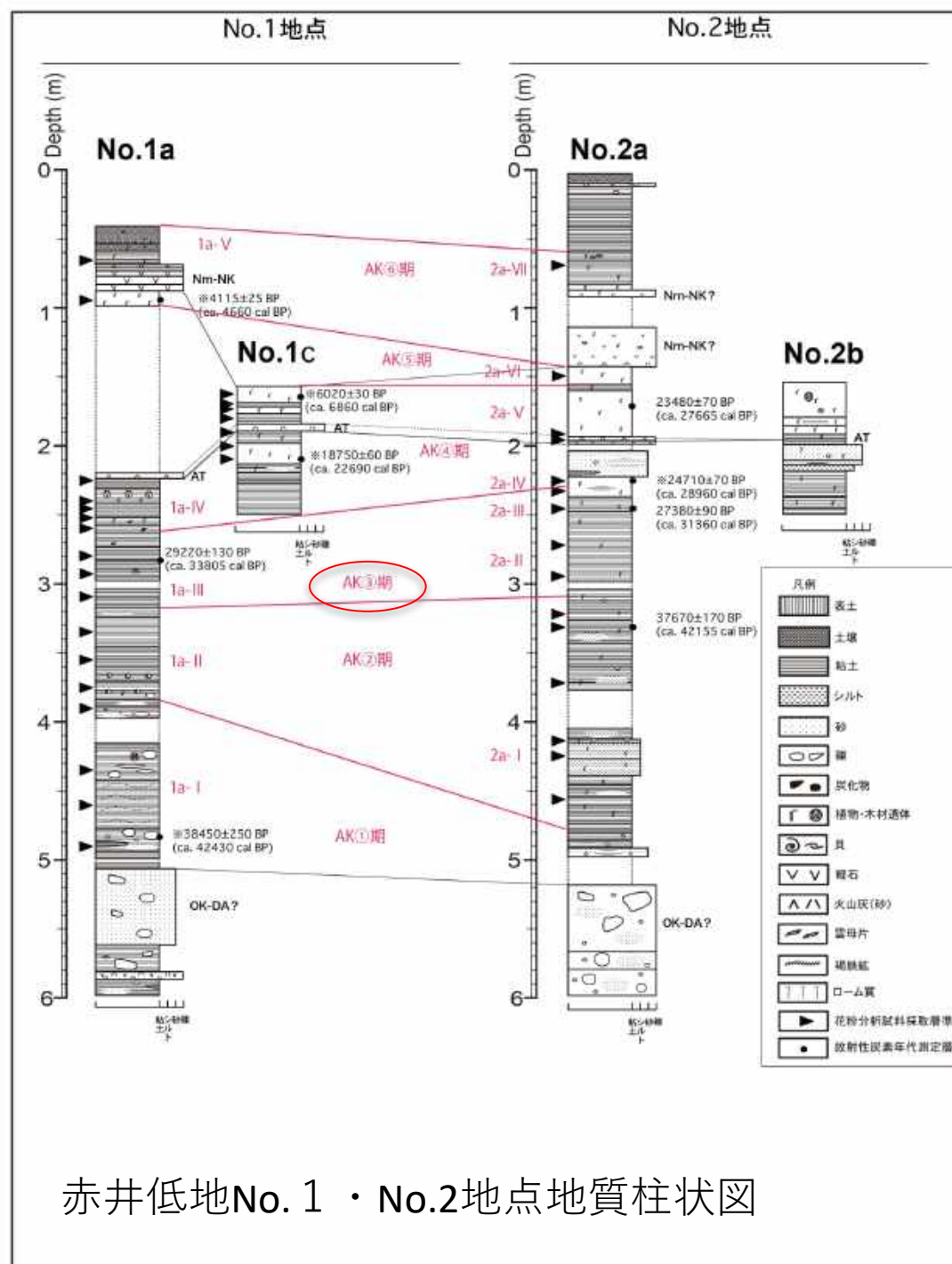
笹山原遺跡周囲の環境



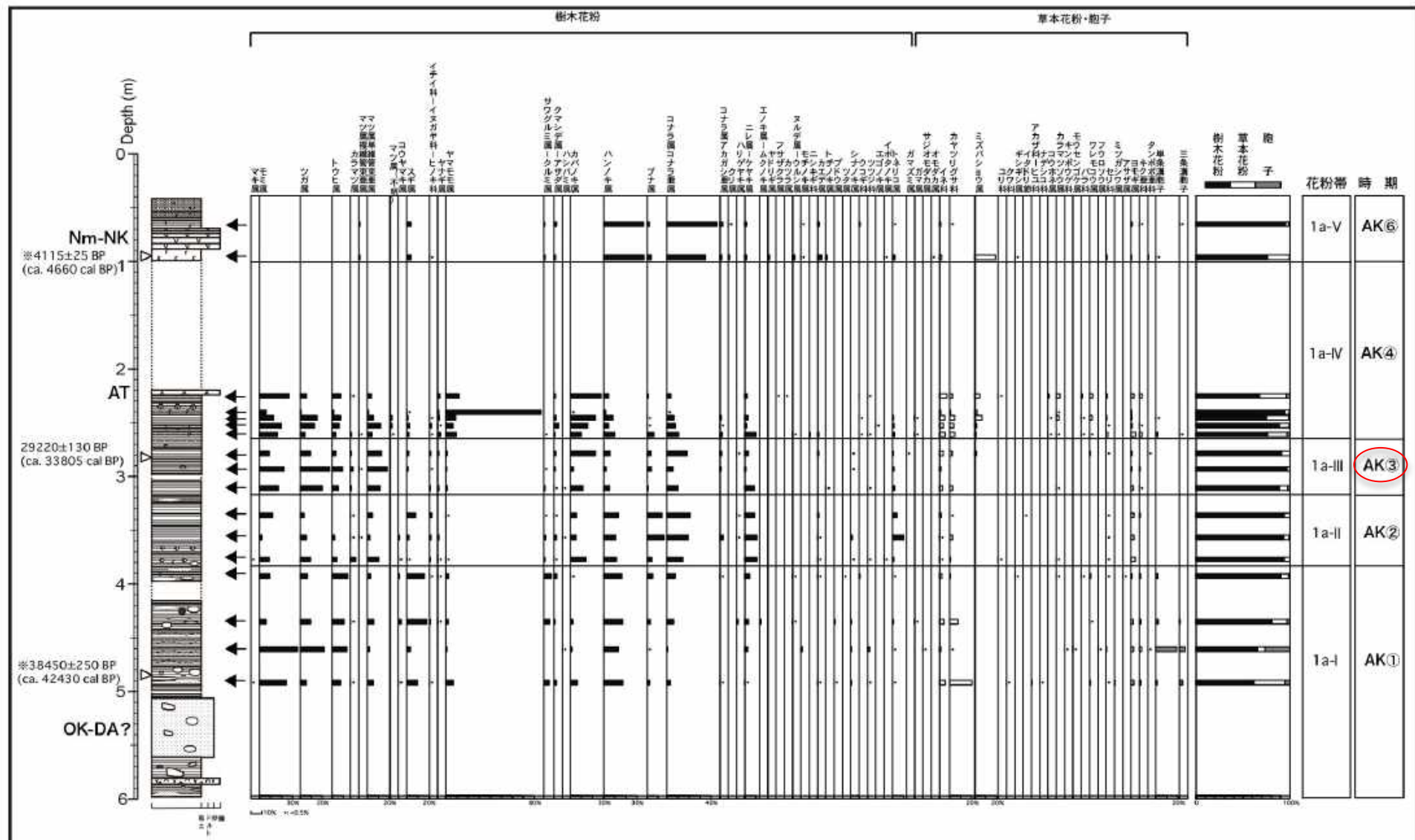








赤井低地No. 1・No.2地点地質柱状図



赤井谷地No.1 a コア

赤井谷地③期（約34000～31000年前）

- 2 a -Ⅱ帯（16 焚火の時期）：落葉広葉樹林が発達し、ハンノキ属やトネリコ属、ヤマモモ属が増加するため、湿地林が分布を拡大した可能性がある。
- 2 a -Ⅲ帯（07 焚火の時期）スギ林が発達し、河畔林要素のヤナギ属が増加し、草本花粉で高湿性のガマ属やジュンサイ属、コウホネ属が産出している。よって、降水量の増加とともに、河川や湖沼などの湿潤な環境が拡大した可能性がある。

笹山原の人々の移動経路

- 笹山原遺跡に残された石器は笹山原遺跡に到達するまでに得られた石材が含まれている。
- 石器石材には在地石材と遠隔地石材がある。
- 在地石材：凝灰質頁岩、凝灰岩、流紋岩、石英、鉄石英など
- 遠隔地石材：黒曜石、チャート、安山岩、硬質頁岩、玉髓など

遠隔地石材の産地

- 黒曜石：高原山（栃木県）、和田峠（長野県）
- チャート・安山岩（北関東）
- 硬質頁岩（山形・秋田県）
- 玉髓（新潟県）
- 緑色岩（石斧石材）



35000年前の人達

- 猪苗代湖畔の湿原に集まる動物たちを投げ槍猟によって捕獲していた狩猟民。
- やや寒冷化した**32000**年前の人々は少人数で焚火付きテントで生活し、その周囲で持ち込んだ石材と在地の石材で狩猟具や製作工具を行っていた。
- 穏やかな気候の**35000**年前の人々は大きめの炉を中心に動物の毛皮を加工する作業を行う一方、僅かな石器製作と狩猟具のメンテナンスを行い、獲物を待ち構えていた。

3万年以前の ふたつの時代

- 生活の道具である石器はほとんど変化がないが、その石材や大きさなどに違いが認められる。それらは笹山原に至るまでの経緯が異なっていたことを物語る。
- 多少の気候変化はあるものの、基本的に狩猟採集生活で、居住期間は長期にわたるものではなかった。狩猟対象の移動とともに、去っていったのであろう。
- 少なくとも3万年以前は笹山原は良好な生活の場として、何度も用いられた可能性がある。

エピローグ

- 30000年前に鹿児島県姶良火山の大噴火が起こります。
- 地球環境は徐々に寒冷化に向かい、約2万年前に最寒冷期になります。その時期の遺跡は笹山原に確認できません。
- その後徐々に温暖化へ向かいますが、1万5千年前に寒の戻りがあります。その頃に細石刃石器群を携えた人々が笹山原に姿を現します。

- 気候は徐々に温暖化に向かいます。笹山原には土器をわずかに持った人々の痕跡が認められます。一次的なキャンプ地だったのでしょう。
- **5700**年前に縄文土器を持った人々がムラを作ります。周年居住が始まりますが、長くは続きませんでした。
- **4800**年前頃から近くの法正尻遺跡に大きなムラが形成され、約**1000**年間続きます。
- その後、猪苗代湖周辺に小規模な縄文ムラが点在します。

- 3000年前に九州北部で稲作が始まります。猪苗代湖周辺では1200年前まで稲作のムラは確認されていません。
- 1200年前（9世紀）に笹山原に集落が作られます。稲作を知り米を食べる人たちは、律令国家に属していました。笹山原で土師器生産を始めます。約100年ほど続いたのでしょうか。近くの山には慧日寺ができ、多くの人々が集まりました。
- そして、長い年月がたち、戦後笹山原に開拓の方々が農業を営み始めます。
- 2001年、郡山女子大学短期大学部の学生が発掘調査にやってきます。

発掘ガール

ドキ土器!



発掘の 秘密展

2025.

1.18(土) » 2.16(日)

※月曜日休館

9:00 AM - 5:00 PM 最終入館 4:30PM

大安場史跡公園 ガイダンス施設

主催

郡山女子大学短期大学部 地域創成学科
公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
(大安場史跡公園指定管理者)

FOR MORE INFORMATION



住所: 〒963-8503 福島県郡山市開成3丁目25-2
電話: 024-932-4845



大安場史跡公園

住所: 〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺大安場160
電話: 024-965-1088
URL: <http://www.bunka-mariabi.or.jp/ayosuba/>

